

# 鶴城中だより

文責  
校長 田上明利  
No. 3

## 福澤諭吉に学ぶ

「自由とわがままとの界(さかい)は、他人の妨げをなすとなさざるとの間にあり。」

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり。」で始まる「学問のすすめ」の中で、福澤諭吉は、自由とわがままの違いについて述べています。

去る5月7日、体育大会の結団式で、生徒達にこの話をしました。学校生活や社会生活の中で私たちは自由に話したり行動したりすることができません。しかし、自由だからといっ

て、いつでも、どこでも、何でも許されるわけではありません。自分の言動や行為、行動が「自由」であるかどうかの目安、それが、「他人の妨げになっていくかどうか」で判断されると福澤諭吉は言っているのでしょうか。つまり、自分の身の周りの人たちが、自分が言ったことややっていることで迷惑をしていたり、不快な気持ちになっていたりとしたら、それは、自由ではなく、わがままであるということです。学校生活では、わがままは許されませ

ん。集団生活をする上では必ずルールが必要になります。体育大会では、特に、集団での行動が多くなります。今、自分がしていることが、他人の妨げ、つまり、他人の迷惑になっていないかを考えながら行動することの大切さを話しました。

体育大会当日は、全生徒がこのことをよく理解し協力して取り組みました。今後もあらゆる場面で、わがままと自由の区別ができる生徒に育てていきます。ご家庭でも話題にしていたければ幸いです。

## 飛躍 ～新たに輝く鶴城中～



## 有終の美を飾る 感動的な 最後の体育大会

5月20日(日)、雲一つない五月晴れの下、たくさんの方をお迎えし、「閉校記念」平成30年度体育大会を開催しました。

紅団森本団長と白団手島団長をはじめ三年生のリーダーシップのもと、全生徒が日々熱心に練習に取り組み本番を迎えました。

今年度の大会を総括すると、まず、何といても全校生徒47名全員が開会式から閉会式まで



引き綱抗 参加でき

紅白対抗 最も嬉しかったこと  
です。また、紅白両団とも一致団結して闘い僅差の勝負であったことも評価できます。さらに、五つの閉校記念競技もとても充実し、盛り上がったことが何よりでした。

生徒の感想でも、「最高の体育大会だった」「み

んながそろって体育大会ができてよかった」「昨年よりも数倍もよい出来だった」「体育大会後にすごい達成感に満ちあふれた」「全校生徒の笑顔が見られて感動した」「最後にふさわしい大会だった」「全校の団結力が深まり、みんな笑顔で終われた体育大会だった」など、充実感、成就感がみなぎっていました。ご来場いただいた皆様、ご声援ありがとうございました。

伝統のYOSAKOIソーラン



応援団演舞

集団行動



大会を終えて記念撮影

3年技巧走



1,2年技巧走



皆さん一緒に(〇×)ゲーム

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---